



哈囉, Hong Kong!

宮崎縣香港事務所通信
2025年7月 vol.20



みやざき地頭鶏を大都会の真ん中でおしゃれに

香港中心地にある炭火烧鳥屋 BIRDIEにて、6月23日からの6日間「宮崎フェア」を開催。会場となったBIRDIEと地鶏炭火烧 粋仙（宮崎市）、みやざき地頭鶏事業協同組合の三者連携により実現したものです。

会場となったBIRDIEがある中環（セントラル）は、香港でも高級でおしゃれな飲食店がしのぎを削るエリア。日本食料理店も多数立地しています。

フェア期間中は、粋仙の黒木氏が焼き手として厨房へ。みやざき地頭鶏の炭火烧きやチキン南蛮とい

った宮崎の味を提供するなど、フェアを盛り上げていただきました。また今回のイベントでは、マンゴーやへべす、佐土原なすなどの他の県産食材を使用した特別メニューも提供され、来店した香港のお客様から好評をいただきました。

当事務所では、現地と宮崎側の関係者の連絡調整などを行い、フェアを側面からサポートしました。



会場となったBIRDIE。焼き台を中心にカウンターが並び、店内には音楽が流れる。



粋仙の黒木氏（中央右）も焼き手として参加。みやざき地頭鶏の炭火烧きなどを提供。



フェア初日の来店者にはノベルティグッズをプレゼント。



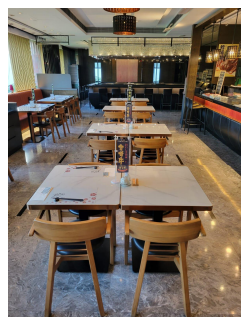
ホテルの日本料理店で 宮崎牛特別メニュー提供

香港郊外にあるロイヤルパークホテルの日本食レストランにて、宮崎牛を使ったフェアが5月1日から3カ月間開催されました。

今回のフェアで提供されたのは、宮崎牛のステーキをメインとした「宮崎A5和牛御膳」約2万2千円。黄金エビの天ぷらなどとともに、豪華なコース料理となっています。当事務所でも、店内装飾や観光パンフレットの提供など、お店の雰囲気づくりに協力しました。



ロイヤルパークホテル Sakurada Japanese Restaurant



名門理工系大学で みやざきスギの展示

香港理工大学のマテリアルセンターにおいて、みやざき杉の展示が行われました。これは県（山村・木材振興課）と県木材協同組合が、昨年度本県に招聘した香港のデザイナー、Kieth Chan氏らとのコラボで実現したものです。

丸太から柱等を切り出した端材を活用した中空パネルを紹介する内容で、素材の軽さや環境負荷の少なさなどが特徴。宮崎を視察したKieth氏らが感じた宮崎の風土や文化とともに紹介されました。



みやざきスギの展示



展示の行われた香港理工大学マテリアルセンター



南九州 3 県で観光PR

6月20日から2日間、香港のショッピングモールにおいて現地旅行会社主催のイベントが行われ、本県も熊本・鹿児島とともに「南九州」連合で出展。3県のキャラクターもステージに登場し、会場を盛り上げました。

香港では日本で大規模自然災害が発生するとの噂が複数広まり、6月には訪日外客が対前年比でマイナス33%（JNTO調べ）となるなど、訪日旅行市場は厳しい状況。それでも会場には、観光地やグルメの情報を求めて日本の各ブースを回る方の姿が数多く見受けられました。

7月2週目に入り、旅行会社等からは訪日旅行の予約が少し上向いてきているとの声もあります。夏休み、秋の行楽シーズンに向けて、香港の方々に日本の、宮崎の良さを再認識していただけるようPRしていきたいと考えています。



南九州（熊本・宮崎・鹿児島ブース）



香港の方は日本のキャラクターが大好き



日本語を学ぶ学生が

今年も宮崎に

香港中文大学專業進修学院で日本語を学ぶ学生が今年も宮崎に研修旅行に来てくれました。

総勢20名の一行は、1週間宮崎大学で日本語や日本文化・社会について学習するとともに、JAみやざき総合検査センターや県総合博物館、県庁などを見学し、本県の農業や歴史、文化についても学習。その後、農家民泊も2泊体験しました。

同校の研修旅行は今回で4回目ですが、過去の研修旅行で交流した香港・宮崎双方の学生が、お互いの地に興味を持って、その後の学びにつながっている事例もでてきています。

7月には、もう1校、香港の大学から研修旅行にきていただく予定になっています。



県総合博物館「民家園」にて



宮崎大学で学生交流



マンゴーの季節

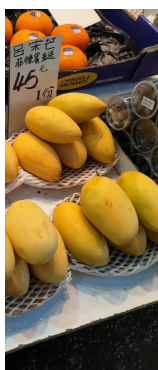
世界中から食品が輸入されてくる交易都市香港では、5～6月を中心に各国からマンゴーが入ってきます。店頭には中国海南省、台湾、ベトナム、フィリピン、ペルーなど色や大きさ、価格も様々なマンゴーが並びます。

例えば、台湾産の少し小ぶりの愛文マンゴーは1個30香港ドル（約570円）程度。産地によっては1個10香港ドル（約190円）程で売られていることもあります。われらが宮崎完熟マンゴーはというと、今年は日系高級スーパー等で1個290香港ドル（約5,500円）程。これだけのお金を払わせるわけですから、品質の違いをしっかりと伝えなければ手に取ってもらえません。

宮崎の特産として香港や台湾などでPRすることがありますが、単に「マンゴー」と表示するだけではなく、色つや、味の違いや自然落下するまで樹上で熟成されるといった育て方の違いも丁寧に説明する必要があります。



店頭にならぶ各国産のマンゴー



宮崎産マンゴー



飲茶で一息

香港を象徴する乗り物の1つ、トラム。

2階建てのかわいらしい路面電車は今年で誕生121年。1日平均約20万人の市民の足として活躍しています。1回あたりどこまで乗っても3.3香港ドル（約60円）の定額運賃。自転車ほどのスピードで走り、自動車が赤信号になるとトラムもしっかり止まります。

車体をラッピングして広告塔替わりに使う企業も多数。アイドルの誕生日や人気スポーツチームが優勝した時は、ファンクラブが祝い特別デザインの車体を走らせることも。

最近はクレジットカードのタッチ決済や主なQR決済も導入がされました…が、空調はまだ無し。夏は長距離乗ると汗だくになります。



東西を結ぶ最長路線（50駅、約13km）に乗ったら何分かかかるか、とある土曜日に実験してみました。結果、1時間44分。信号と人ゴミがなければ自分の足で走った方が速い…

それでも2階席に座って、通りの景色を見ながらユラユラ揺られて移動すると、まるで空中散歩している気分になります。（坂）